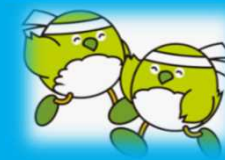


「育成を目指す資質・能力」から考える

「学校評価の4点セット」と「学力向上プラン」



第1回地域授業改善協議会「振り返りシート」から学ぶ

【日田教育事務所】

◆要旨◆ 第1回日田管内地域授業改善協議会(参加者:小中学校長、市町教育委員会 他 R4.5.6実施)

○目的

学校評価の4点セットと学力向上プランの連動及び精度の向上等についての説明・協議を通して、各学校における目標達成に向けた組織的な授業改善に資する。

○協議の視点(4人グループ)

学校として育成を目指す資質・能力と授業改善がどのようにつながっているか。

○共同エージェンシーを発揮する

本年度、日田教育事務所は、学校や市町教育委員会等と「共同エージェンシー」を発揮することで学校や市町教育委員会の役に立つことを通して、「子どもたちの有能さ」を引き出すことを目指します。

本協議会における校長先生方の「振り返りシート」からの学びを、学校訪問等での支援に生かしていきます。

■育成を目指す資質・能力について

○「育成を目指す資質・能力」の設定を子どもの実態からわかりやすい内容にすることが必要である。

○学校の課題、子どもの課題の要因をさらに丁寧に探る必要がある。そうすることにより、「育成を目指す資質・能力」の焦点化のイメージが今回の協議でより明確になった。

○「育成を目指す資質・能力」を全職員で意識するための「言語化」の精度は重要である。口頭で伝えるとともに、「見える化」がさらに大切であると感じた。

○コロナ禍の中、家庭・地域とどうつながり、「育成を目指す資質・能力」の視点から課題や解決策を共有・協働していくかを、もう少し考える必要性を感じる。

■学力向上プランについて

○「学力向上プラン」の中にもっと明確に「育成を目指す資質・能力」を反映することで、取組が目的化しないですむと感じた。

○「德育」を「学力向上プラン」に組み込む際、非認知的スキルと学力向上の関連について反映させる工夫をしたい。

■検証・改善について

○検証指標において、いわゆる「生徒アンケート」結果からだけでは、「育成を目指す資質・能力」は見えてこないことを実感した。アンケート結果をどのように分析、深掘りするかが大切である。

○「4点セット」にある3つの重点目標が日常で全職員に意識されるものでなければと改めて実感した。取組状況について教職員が振り返ることのできる交流の場を定期的に担保することを改めて決意した。

■「学校評価の4点セット」と「学力向上プラン」の連動について

○学校の教育目標の達成に向け、全教職員による共通理解・意思統一が必須である。そのためにも、「学校評価の4点セット」や「学力向上プラン」は、誰が読んでもわかりやすく、また、職員の誰もが説明できることが大切だと改めて実感した。

○学校の課題の焦点化をすることに加えて、さらにそこから何を目指していくのかを絞り込む必要性を実感した。

○「読解力」は単に文章を読んで理解する能力にとどまらない。読解力を向上させることで、相手が自分に言いたいことを容易に理解できるようになる。さらに相手にどのように自分の考えや気持ちを伝えたらよいかわかり説得力のある話ができるようになる。これにより、日常で起こりうるコミュニケーションでの誤解、曲解等のトラブルが減少するとともに、協働性が高まると考える。⇒このようなことがプランに反映できればと思う。

○「学校評価の4点セット」をベースにしなが、そこに記せないものを「学力向上プラン」や「体力向上プラン」、「児童生徒支援プラン」に落とし込んでいく必要がある。

◆◆エージェンシーとは◆◆

変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力。必ずしも一人だけで発揮されるものではなく、周囲との関係性の中で、共同で発揮されるものとして「共同エージェンシー」ともいう。